

李 成市 (り・そんし) 氏

早稲田大学 文学学術院 教授
大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 理事

「国際化の中の日本研究—歴史研究を中心に」

近年、「国際」を冠する日本学研究が活況を呈している。「国際日本」を掲げる大学の学部、学科さらには付設の研究所は、日本国内において相当な数におよぶ。元来、日本文学、日本史は、それ自身で成立するのではなく、「西洋」を意識して、19世紀末に国文学、国史なる学問ジャンルとして研究、教育体制として成立した経緯がある。

「国際」を冠する日本学は如何なる研究、教育上の問題としてとらえることができるのか。そこにはどのような問題がはらまれているのか。日本における歴史学研究の事例を中心に検討してみたい。

■ 経歴

1952年名古屋市生まれ。1982年早稲田大学大学院博士課程修了。博士（文学）。横浜国立大学教育学部助教授、早稲田大学文学部助教授を経て、現在、早稲田大学文学学術院教授、早稲田大学理事、人間文化研究機構理事。専攻は朝鮮古代史、植民地朝鮮における史学史。著作に『東アジアの王権と交易』（青木書店、1997年）、『古代東アジアの民族と国家』（岩波書店、1998年）、『創られた古代』（三仁出版、2000年、ソウル）、『植民地近代の視座』（共編著、岩波書店、2004年）、『岩波講座 日本歴史』（共編著、全22巻、2015年）、『闘争の場としての古代史』（岩波書店、2018年）など。

